

月影



第58号

闇があるから
光がある



平成二十九年九月十五日発行
浄土宗西山禅林寺派
常林院

闇が深いほど
微かな光が
見えてくる

苦悩が大きいほど
本当に大切なものが
見えてくる

暗闇が
縁となって
光に気づき

苦悩が
縁となって
大切なものに気づく

仏さま巡礼

薬師如来



薬師如来は、病を治してくれる仏さまとして古くから信仰され、現在も「お薬師さん」と親しみを込めて呼ばれている如来さまです。奈良の薬師寺の金堂にある国宝薬師三尊像が有名です。

特徴は薬壺

薬師如来は、左手に薬壺（やっこ）と呼ばれる薬の壺を持って、この薬壺には万病を治す薬が入っていて、いくら使っても減ることはないといわれています。



薬壺（やっこ）

姿形は釈迦如来

薬師如来と釈迦如来は姿形が同じなので、薬壺が失われていると釈迦如来と区別ができません。古くは薬師寺の薬師如来のように薬壺を持たない像も造られています。



薬師寺 h p より

たり、長い歴史の中で失われることも少なくありません。

その場合は、仏像に記された銘文や言い伝えによって薬師如来と判断されるのです。また、薬師如来の両脇には日光菩薩と月光菩薩（がっこう）がおり、薬師如来を供養するものを護り助ける十二神将（じゅうにしんしょう）もまつられています。薬壺がなくても、これらの像の中央におられると薬師如来であることが分かります。

病を治し寿命をのばす

薬師如来は菩薩の時、如来になるために十二の大きな誓いを立てて修行をされました。そして、その大願を成しとげられて如来になったといわれています。この大願の中には、

- ・ 病をいやす
- ・ 寿命をのばす
- ・ 飢えに苦しむ者に食を与える
- ・ 衣服がない者に衣服を与える

というような願いがあります。これらの願いは、この世で人々の利益となる功德が強いため、早くから広く信仰を集めることになりました。そして、たくさんの方々が薬師如来像が造られるようになりまし。

仏事作法

命日(めいにち)

亡くなった日のことを命日と呼びます。命日は、故人のことを思い出し、供養する大切な日です。仏前で僧侶と共に読経したり、お墓参りをして供養します。

色々な命日

◎月命日

毎月の亡くなった日のことを月命日といいます。

(例) 一月十七日に亡くなった方の月命日は毎月十七日。

◎祥月命日

亡くなった同じ月の命日のことを祥月命日(しょうつきめいにち)

といます。(例) 一月十七日に亡くなった方の祥月命日は毎年一月十七日。

◎年回(法事)

年単位の命日のことを年回、または法事といえます。

亡くなってまる一年たった命日のことを壺周忌。まる二年の命日(三年目)のことを参回忌。まる六年(七年目)を七回忌といいます。

七回忌以降は、十三回忌、十七回忌、二十五回忌、三十三回忌、三十七回忌、五十回忌と続き、五十回忌後は五十年ごとになり、遠忌(おんき)と呼ぶよ

うになります。※地域により二十三日忌・二十七回忌を勤める所もあります。京都は合わせて二十五回忌として勤めることが多いです。

年回表

年回表は、その年の年回法要が分かる早見表です。年回表には、壺周忌から百回忌まで記してあり(常林院の場合)、その下に亡くなられた年が書いてあります。「今年の壺周忌は平成〇年に亡くなられた方です」という意味です。

常林院では

当寺では、毎年年末にカレンダーと一緒に年回表をお送りさせていただきます。その年に年回が回っているお家には「戒名 ○回忌」という案内を年回表と一緒に同封しています。

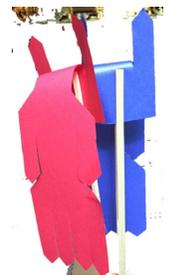
平成二十九年度 年回表

壺周忌	平成二十八年
参回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十五回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十年
三十七回忌	昭和五十六年
五十回忌	昭和四十三年
百回忌	大正七年

亡くなられた年

彩寺記

ほんせがきほうよう
盆施餓鬼法要



施餓鬼旗

八月十六日、盆施餓鬼法要を当寺で勤めました。

施餓鬼法要を申し込まれた方、そして永代祠堂、永代供養をあげておられる方の供養をさせていただきました。夕方にもかかわらず、たくさん檀信徒の皆様が参りにみえました。

施餓鬼法要では、阿弥陀様の向かい側に施餓鬼棚を置きます。組寺四ヶ寺の住職と共に読経し、各家の諸精霊を供養しました。檀信徒様には順番に施餓鬼棚でお焼香を

していただき、法要後、施餓鬼旗をお渡ししました。

また、来年も皆様と一緒に法要を勤め、再びお浄土へお帰りになるご先祖様をお送りしたいと思います。

皆様のお参りをお待ちしています。



雑記抄

話を聞く

先日、子どもが犬に本の読み聞かせをしてこの犬は読書介助犬というので読書や人前で本を読むことが苦手な子どもが、静かに聞いてくれる犬に読み聞かせをすること、本を読む自信につながるそうです。読み違えても途中でつまっても、何も言わずにすべてを受け入れ聞いてくれる犬に、子どもは安心して読むことができますよ。うです。▽当寺にも十二才になる蓮(れん)という犬がいます。朝、ガレージのところにつかないでいると、出勤途中の方が蓮に声をかけます。中にはわざわざ

自転車から降りて、蓮をなでながら話しかけている方もおられます。蓮は何も言わずただ話を聞いています。笑顔を再び会社へ向かわれます。▽そんな様子を見るたびに、「話す」ことに力を入れて、おろそかにしがちな「聞く」ということの大切さを蓮に教えられています。



昼寝をする蓮